

『ご存知ですか？ “歯っぴー・バースデー検診”  
～かかりつけ歯科で定期健診、いつまでも元気な歯を～』

彦根歯科医師会 会長 <sup>かわじり</sup>川尻 <sup>ひでお</sup>日出雄 氏（彦根市・K歯科医院）



彦根市を南北に走る巡礼街道。そのベルロード沿い(長曾根南町)にあるK歯科医院。この歯科医院の院長であり、平成29年7月に彦根歯科医師会会長にご就任された川尻日出雄先生に、これからの歯科医療や、口のケア・健康について、お話をうかがいました。【取材日：2017(平成29)年8月9日】

(インタビュアーは、彦根医療福祉推進センター所長 切手俊弘医師です。本文中青色「」の文字部分)

## 大学病院から一般歯科へ 「先生のご経歴について教えてください。」

「私は、生まれは一宮で、父の仕事の都合で彦根に来て育ちました。私の親は歯科医師ではなく、企業家でしたが、父は、子どもには医者の道、医学の道に進むことを勧めました。それで、兄と私は歯科医師に、妹は内科の医師になりました。

開業するまでは、名古屋大学の口腔外科で研究などを行っていました。専門分野は、インプラントと口腔内の外科的手術です。歯を抜いたり外科的な対応をしたりするのが専門です。

開業のきっかけとしては、私が大学で行っていた研究が一区切りついたことや、私の父や私の妻が歯医者の娘でしたから、周りから開業を勧められたこともあって開業をしました。」



## 地域の歯科診療所として思うこと

「彦根に開業してもう 30 年になります。患者さんの中には結婚してこの地を離れても、歯の治療にはここに帰ってこられる方もおられますね。

今、社会的にも歯科の予防を推進していることもあってか、定期的に受診される方は増えてきていると思います。しかし、一方で痛みのある時にだけ診察に来られて、痛みがとれたら受診されなくなり、定期受診が定着しないという方もおられます。受診に来られたときにはかなり悪い状態であることも多いので心配

です。高齢者の場合ですと、歯の根元が悪くなっている場合が多いですね。口の中の状態の悪化は、脳梗塞や肺炎などの因子になると言われていますので、口のケアの重要性は問われてきています。

我々、歯科の仕事が注目を浴びるのは嬉しいですが、それを受ける側にもっと関心を持ってもらわないといけないですね。他にも舌磨きも大事です。舌苔が舌に付着している高齢者が多いことが気になります。そういうこともきちんとケアしていかなくてはならないと思います。」

「小さい頃から診てくださっているかかりつけの先生がいるというのは本当に安心ですね。医療でも歯科医療でも、予防や健診についての意識を高めるために、もう少し働きかけが必要ではないかなと思います。先生からもアイデアをお聞かせいただいて、老若男女問わず、『口の中のことにみんなもっと関心をもとう！』ということ、行政も含めて、医療や介護の関係者からもっと声をかけていかなければならないですね。」



## 歯科衛生士との関わり 口の中のケアの大切さ

「先生が一番関わりの多い職種という、やはり歯科衛生士だと思いますが、口の中というのは、私たち人間にとって、食育することなど生活する中で一番大事なところですので、管理栄養士や言語聴覚士などとの連携も非常に大事だったりと思いますが、他の職種の方とのつながりはいかがですか。」

「今、歯科衛生士さんの役割は大きいと思います。介護における口のケアは、私たち歯科医師よりも歯科衛生士さんに関わってもらえるといいと思います。そのあたりがまだアピールできていないのではないのでしょうか。

以前、くすのきセンターでやっていることう地域チームケア研究会(\*注釈)で、滋賀県の歯科衛生士会の会長さんと一緒になった時に、ことう地域チームケア研究会の世話人として、ぜひ入っていただいたほうがいいのではないかと話をしていました。多職種の集まりに、歯科衛生士会として組織的に関わってもらって、口のケアのことを伝えてもらえるといいと思います。

口の中のケアやマッサージ、唾液の分泌を促すなど、歯科医師が治療をする、ということ以外に、口の中に関わるものがたくさんあります。

「私もそう思います。先日、歯科衛生士の方から口のケアの大切さを教えてもらいましたが、大事なところがまだまだ眠っている分野なのかなと思いました。歯科医師と歯科衛生士中心に、口のケアの重要性をもっと広めたいと思います。」

(\*注釈「ことう地域チームケア研究会」:湖東圏域の医療福祉専門職、関係者を対象とした研修・交流の場)



## 義歯(入れ歯)について

「お年寄りの方で、入院するまでは普通に義歯をはめていたのに、長期間入院でやせて合わないとか、入院すると義歯を使わなくなってしまって、悪循環になっているような方がおられますが、義歯のことについて教えていただけませんか。」

「口の中の環境にとっては、義歯を装着することによって、誤嚥性肺炎の予防ができたりすることなども言われています。」

義歯をもともと使っておられた方で、合わなくなってしまったという場合は治せると思います。使い慣れている義歯の方が、新しく作り直すよりも良いと思います。新しく義歯を作ると、口の中の環境が変わり、慣れるのが大変ですので、私は患者が今まで使っていたものを手直するのが一番良い方法だと思います。

義歯は使い慣れるのが難しいものです。義歯を使った状態で嚥下(食べ物を飲み下す)する練習から始めないといけません。今まで食べられていたご飯が、義歯を入れたことで食べられなくなるといったような一時的な変化も見られます。そこをどういふふうに患者さん自身も一生懸命やっただかくかということが重要になってきます。また、どうしても義歯が合わないという人もいますかと思しますので、その場合には、インプラントがよいかと思います。

いずれにしても、早いうちに患者さんに考えていただくとよいのではないのでしょうか。

『噛む』ということは大切なことです。噛むことができなくなった段階で、皆さん、初めて『しまった!』と後悔されるとお聞きしますので、早めに対応できるようにすることが大切です。」



## 在宅訪問歯科診療について



「例えば寝たきりの方であるとか、病院に行きたくても行けない方もおられますが、そのような人に対して歯科医師会として、どのように活動されているかお聞かせいただけますか。」

「彦根では、在宅診療に行かれている先生は現実的には少ない状況ですね。歯科衛生士の人材確保が難しく、スタッフが多いところは積極的に在宅診療できると思うのですが、この地域ではまだあまりできていないのではないのでしょうか。」

でも、依頼があれば行きますよ、と言っています。うちの患者さんにも、もし来られなかったら家に行きますと話をしています。

歯科の訪問診療にはいろいろな特殊な機械を使います。彦根歯科医師会では、訪問診療で使用できる機器を購入し、会員が使用できるように準備しています(写真参照)。訪問診療の場合、ベッドサイドでは難しい治療もあり、治療内容によっては、来院が必要な場合もあるかもしれませんが、義歯の修理は案外ベッドの上でもできたりしますので、一度かかりつけの先生に相談していただくと良いと思います。彦根歯科医師会として訪問診療に関する窓口も決めて対応するようになっています。」

「歯科以外の医療福祉専門職が関心を持って、受診できる環境を整えたりする取組も必要になってくるのかと思います。専門の先生につなげていけるような関係を作っていくのも大切ではないかと思ます。」

## みんなで広めよう！『歯っぴー・バースデー検診』

「先生から住民の皆さんに一番に伝えたいことはどのようなことですか」

「『誕生日には歯を診てもらいましょう』ということですね。2年くらい前に『歯っぴー・バースデー検診』という標語をつくりました。この標語をみんなに知ってもらって、誕生日がきたら、口の中の定期健診をするということが定着するとよいと思っています。

多くの世代に浸透していくように、みんなで広げていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。」

「口をしっかりとケアし、良い状態を保つことは健康の入り口ではないかと思います。私たちも市民にしっかり啓発していきたいと思います。こう地域チームケア研究会でも歯科医師会の先生には毎回ご出席いただいて貴重な意見をいただいています。今後も多職種に対してご指導いただきますようよろしくお願いします。」



とても健康的でたくましい印象の川尻先生。20年ほど前から、ウエイトトレーニングで身体を鍛えておられるということです。最後に切手俊弘先生と診察室で記念撮影をしていただきました。

今回、先生にお話をうかがって、口のケアの大切さや、定期的に診ていただくことの必要性を強く感じました。口の健康について、これからもご指導をよろしくお願いいたします。



ガラス張りの明るくモダンなつくりの院内には、昔懐かしい風景のジオラマが多数展示されていました。すべて先生の手作りで、小さな部品一つひとつ丁寧に色つけをして作り上げていかれそうです。どれも素晴らしい作品で、記念に何点かお写真を撮らせていただきました。

